

「東北電力スクールコンサート」を開催しました

9月18日、当社が取り組む次世代支援プロジェクトの一環として、東通小学校において「東北電力スクールコンサート」を開催しました。

当日は、青森県内を中心に活動しているマリンバ奏者の対馬文子さん、ピアノ奏者の大屋和香さんが、クラシックや童謡、ジブリ映画の名曲など、全11曲を演奏しました。

参加した児童約300名は、曲に合わせて手拍子を打ったり、体を動かしたりしながら、マリンバの優しい木の音色とピアノの軽やかな伴奏による華麗な生演奏を楽しみました。

また、公演の途中には、マリンバの歴史やマレット（ばち）の種類、演奏技法などについてクイズを交えて紹介する場面もあり、児童は興味深く聴き入っていました。

プログラムの最後には、児童が手拍子や足踏みなどでリズムを刻むボディパーカッションに挑戦。全身を使って精一杯リズムを奏で、演奏者との共演を楽しみました。

児童からは、「聴いたことがある曲が多くて楽しかった」「きれいな生演奏を聴くことができて嬉しかった」「マレットを4本使ったり速く打ったりする様子に驚いた」などの感想が寄せられました。

当発電所では、地域の未来を担う子どもたちの個性や才能をのびのびと発揮できる環境づくりを、これからもお手伝いしてまいります。



美しい音色に真剣に聴き入る児童



マレットの種類による音色の違いを説明



高学年の児童はより複雑なリズムのボディパーカッションに挑戦

津波から守る対策についてご紹介します

当発電所では、東日本大震災の教訓などを踏まえ、大きな災害にも耐えられる発電所を目指し、震災前の安全対策に加えて、設備面と各種訓練など運用面の双方からさまざまな安全性向上対策に取り組んでいます。

設備面の対策として今回は、津波対策についてご紹介します。

当発電所は、過去に発生した津波や地質の調査を行い、想定される最大の津波の高さを考慮し、主要な建屋を海拔約13mの敷地に建設しています。さらに、津波に対する安全性の向上を図るため、2012年3月から2013年5月にかけて、防潮堤（海拔約16m）と防潮壁（海拔約15m）を設置しました。

想定される津波の高さについては、東日本大震災などの最新の知見や厳しい条件を設定し、2014年に最大で11.7mと再評価しました。

また、本年4月には、内閣府の有識者検討会が、日本海溝・千島海溝沿いで巨大地震が発生した場合の震度分布・津波高さ・浸水域などに関する検討結果を公表。その報告書によると、当発電所周辺（小田野沢地区）で想定される津波の高さは、最大で9.3mであるとの見解が示されています。

このことから、当発電所の敷地の高さ（海拔約13m）は想定される津波の高さを十分に上回っていることがあらためて確認できました。

今後も国の新規制基準に適切に対応するとともに、最新の知見を収集し、発電所のさらなる安全性の向上に努めてまいります。

《防潮堤・防潮壁のイメージ図》

